

令和元年度  
新潟県病虫害発生予察速報第 9 号  
(斑点米カメムシ類の発生状況)

コシヒカリの斑点米カメムシ類の主要加害種はアカスジカスミカメであり、多発年にはコシヒカリの斑点米による格落ち率も高くなる傾向がある(文末図参照)。本年は水田畦畔におけるアカスジカスミカメの確認地点率が平年に比べ高く、斑点米の多発生が懸念されるため、コシヒカリにおいても適期の薬剤防除を徹底し、斑点米の発生防止につとめる。

1 斑点米カメムシ類主要加害種の発生状況(7月下旬)

(1) 水田畦畔におけるカメムシの種類別発生量(表1、2)

- ・県全体のアカスジカスミカメ(以下アカスジと言う)の確認地点率は平年比やや高く、確認虫数は平年比やや多い。アカヒゲホソミドリカスミカメ(以下アカヒゲと言う)の確認地点率は平年並で、確認虫数は平年比やや多い。ただし、アカヒゲ、アカスジの発生量には地域差があり、新潟地域では2種とも確認地点率は平年比高く、確認虫数は平年比多いが、平年並かそれ以下の地域も見られる。
- ・県全体でのオオトゲシラホシカメムシの確認地点率は平年比やや低く、すくい取り虫数は平年比やや少ない(表1、2)。

(2) メヒシバ等の出穂・結実したイネ科雑草が繁茂している畦畔ではアカヒゲ、アカスジの高密度の生息が確認されている。また、出穂したスズメノテッポウ等、雑草が多い一部ほ場で本田内にアカスジが多く生息している事例が見られる。

(3) 7月25日現在、北陸地方では向こう1か月間の気温は平年比高く、降水量は平年比少なく推移すると見られ、斑点米カメムシ類の増殖や活動は活発となると考えられる。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率(単位:%)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	本年	21.4	61.5	21.4	25.0	16.7	33.3	29.7
	前年(平30)	21.4	30.8	21.4	23.1	8.3	44.4	24.0
	平年	13.1	22.7	29.1	20.6	21.7	33.5	22.8
	平年比	やや高	高	並	並	並	並	やや高
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	64.3	69.2	57.1	8.3	33.3	11.1	43.2
	前年(平30)	57.1	46.2	35.7	23.1	8.3	33.3	34.7
	平年	48.4	40.5	47.7	41.2	25.6	23.3	40.1
	平年比	やや高	高	並	低	並	やや低	並
オオトゲシラホシカメムシ	本年	0.0	7.7	7.1	0.0	25.0	11.1	8.1
	前年(平30)	14.3	15.4	21.4	15.4	16.7	11.1	16.0
	平年	9.4	7.3	19.0	14.9	25.8	6.9	13.6
	平年比	やや低	並	やや低	やや低	並	並	やや低

表2 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数（単位：頭／地点、20回振り）

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	本年	2.6	19.5	0.6	6.2	0.6	2.0	7.3
	前年(平30)	0.6	1.5	0.9	1.2	0.1	8.4	1.3
	平年	1.2	4.7	6.5	1.7	1.8	4.7	3.7
	平年比	やや多	多	やや少	多	やや少	並	やや多
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	3.3	19.2	2.2	0.2	2.8	0.3	7.0
	前年(平30)	3.5	9.6	6.8	7.8	0.6	0.7	6.0
	平年	2.6	6.1	6.7	5.9	1.8	1.2	4.7
	平年比	並	多	やや少	やや少	並	並	やや多
オオトゲシラホシカメムシ	本年	0.0	0.1	0.1	0.0	0.5	0.1	0.1
	前年(平30)	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
	平年	0.1	0.2	0.4	0.3	0.4	0.1	0.3
	平年比	やや少	並	並	やや少	並	並	やや少

※表1, 2：畦畔すくい取り調査結果（病害虫防除所巡回調査、74地点、7月下旬）

■：確認地点率（確認虫数）が平年比やや高～高（やや多～多）となったもの

## 2 当面の対策と注意事項

### (1) 水田周辺の雑草管理

ア イネ科雑草が繁茂している畦畔は、速やかに草刈りを実施する。また、防除実施前に雑草が繁茂するようなら再度草刈りを行い、除草を徹底する。

イ 水稻が出穂した後も畦畔から水田への斑点米カメムシ類の侵入は続くため、イネ科雑草が出穂・結実しない間隔での除草を継続する。

### (2) 水田内雑草の管理

水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、斑点米カメムシ類の水田への侵入・増殖を助長するので早めに除去する。特にアカスジは水田内にイヌホタルイが残存すると多発生しやすいので除去を徹底する。

### (3) 適期の薬剤防除の実施

ア 7月26日現在の水稻の出穂期予想はこしいぶきで2日、コシヒカリで1日程度平年より早まる見込みだが、今後の気象条件によって変動する可能性がある。特にコシヒカリ、新之助等の中晩生品種については出穂時期を的確に予測し、防除適期を逸しないよう注意する。

イ 散布回数、時期は使用する防除薬剤の種類によって異なる。粉・液剤の1回散布の場合は出穂期3日後頃～10日後、2回散布の場合は出穂期の7～10日後と、さらにその7～10日後である（薬剤の種類に応じた散布回数の考え方は、平成31年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針を参照）。

ウ 粒剤の散布適期は出穂期～出穂期7日後である。水深3cm程度の浅水で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。散布日はできるだけ好天が予想される日を選び、多雨や低温、日照不足が予想される場合は散布を控える。

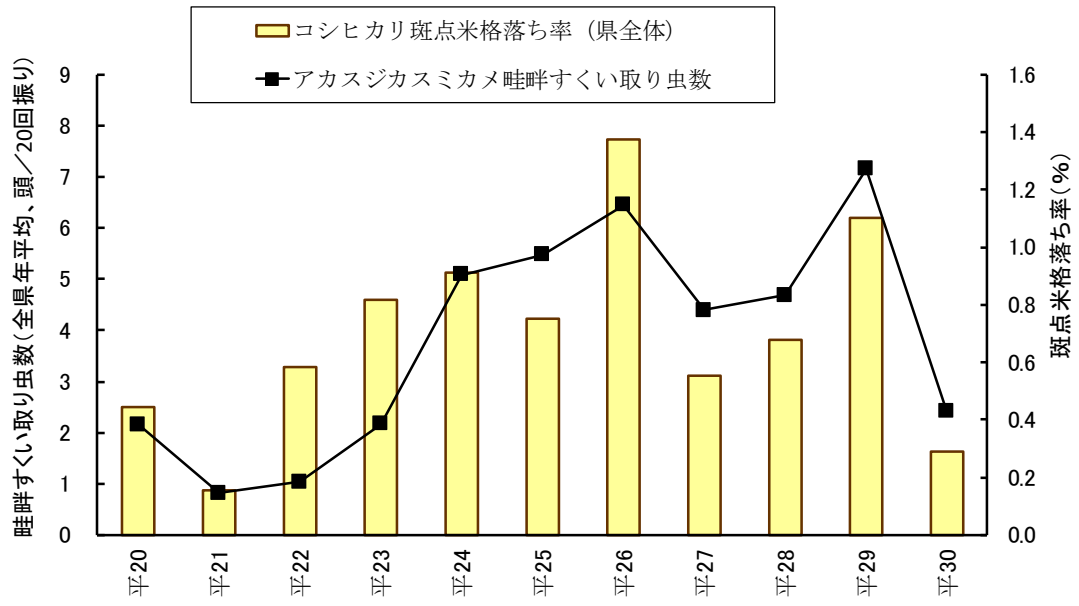


図 アカスジカスミカメの畦畔すくい取り虫数とコシヒカリ斑点米格落ち率の年次推移